



2012年1月19日

お客様向け資料

BNP パリバインベストメント・パートナーズ株式会社

ブラジルの政策金利の引き下げについて

ブラジル中央銀行は、現地 2012 年 1 月 17 日・18 日の両日開催された COPOM（定例金融政策委員会）において、Selic（政策金利）を 0.50%引き下げ、年率 10.50%とすることを全会一致で決定したと発表しました。

ブラジル中央銀行は、世界経済の減速傾向が鮮明になると、ブラジル経済に対する影響を懸念して、2011 年 8 月の COPOM から金融政策を緩和方向（金利引き下げ）へと転換しました。今回の利下げもこの流れに沿ったもので、市場でも 0.50%の利下げを織り込んでおり、8 月からの合計の金利引き下げ幅は 2.00%となりました。

ブラジルでは 2011 年 11 月の鉱工業生産が市場予想を下回る前月比+0.27%、前年同月比-2.54%となり、景気の減速が見られる一方、11 月の月間経済活動指数（季節調整済み、2003 年 1 月=100.00）は 4 ヶ月ぶりに 140 の大台を回復し（2011 年 11 月=140.19）、市場予想を上回る前月比+1.15%の伸びを示したほか、11 月の小売売上高が前月比+1.30%となり、10 月の+0.0%から大幅に上昇し、過去 15 ヶ月間で最高の増加率となるなど、景気対策が一定の効果を挙げていると考えられます。

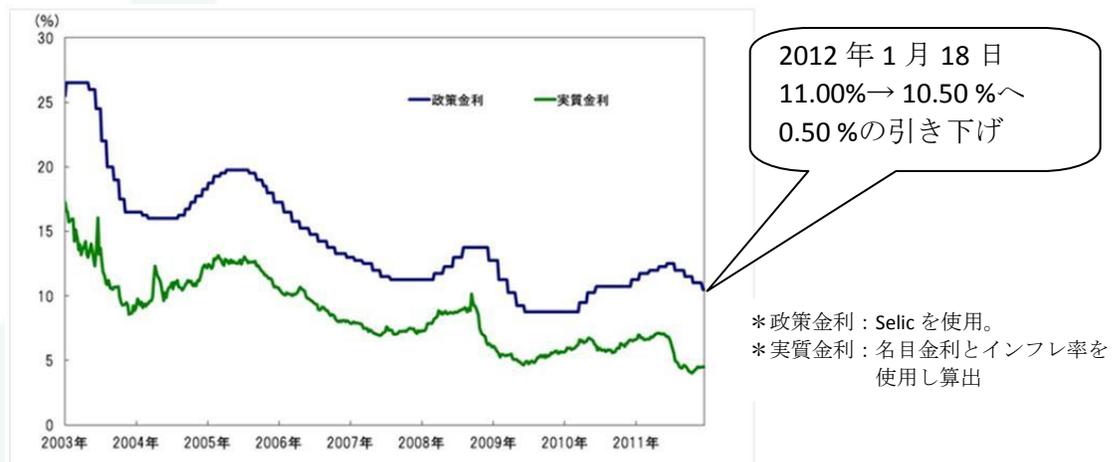
また、12 月のブラジルの消費者信頼感指数も、前月比で若干プラスとなる 119.60 ポイントとなりました。

インフレについては、2011 年 12 月の拡大消費者物価指数（IPCA）が前月比+0.50%、前年同月比は 11 月の 6.64%から 6.50%に鈍化し、これまでの予想に反して中銀目標圏内（+4.50%±2.00%）に収まりました。

ブラジル中央銀行は、当面はインフレ抑制よりも世界経済の混乱に伴うブラジル経済の更なる減速を防ぐことを優先課題と位置付けており、世界経済見通しの厳しさを背景に、今後も必要であれば更なる利下げを行うとみられます。今回の利下げ後も金利の絶対水準は高く、依然として利下げ余地があることに加え、インフレが中銀目標圏内に収まったことで、追加利下げを行いやすい環境にあると見られます。

ブラジル経済のファンダメンタルズに大きな変化はないと考えられますが、世界銀行が世界経済の成長率予想を下方修正するなど、対外的には厳しい環境が継続するとみられることから、当面は慎重な見方を採ってまいります。

ブラジル政策金利と実質金利の推移 (2003年2月1日～2012年1月18日)



本資料は、BNP パリバアセットマネジメント ブラジルが作成した資料をもとに、BNP パリバインベストメント・パートナーズ株式会社が、ブラジル市場に関する当社の見解を提供することを目的として、2012年1月19日に作成したものであり、法律に基づいた開示資料ではありません。本資料における統計等は、当社が信頼できるとされる外部情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性や完全性を保証するものではありません。本資料中の数値、図表、見解や予測などは本資料作成時点でのものであり、予告なく変更する場合があります。尚、本資料中の過去の実績に関する数値、表、見解や予測などを含むいかなる内容も将来の運用成績を保証するものではありません。